

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390102246		
法人名	株式会社サンブレラ		
事業所名	グループホーム パラソル操南 (1階)		
所在地	岡山県岡山市中区藤崎136-26		
自己評価作成日	平成 31 年 4 月 22 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&igyosyoCd=3390102246-00&serviceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 31 年 4 月 26 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員の各種研修会には積極的に参加しています。特に認知症介護実践研修においては受講可能なスタッフから順番に講習させることにより、認知症への理解、現場での実践に役立っています。年間の行事においても施設内で1回以上開催、地域資源(ふれあいセンター、学校、スーパーなど)を使った外出を積極的に行っています。ご家族様の協力は多くあり、面会も二週間に一度以上の割合が5割あります。ご家族さまへは面会時に普段の様子報告を行い、写真集を見て頂く事で普段の表情を知って頂くきっかけにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

共有スペースは広く開放感があり、1階のウッドデッキや2階のベランダから四季の移ろいを感じることが出来る。また、木製フレームのソファやアンティーク家具が寛ぎスペースにマッチして温かい雰囲気演出している。そして、落ち着いた環境の中、利用者はテレビを観たり、ウッドデッキで日光浴をしたりする等、思い思いに好きな場所で日々の暮らしを楽しんでいる。さらに、空気清浄機を壁掛けにすることで、足元の安全性や動線の確保に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	オープン当初、事業所の内部研修として理念の共有をしているがその後内容を理解し、覚えて実践しているかという意味では出来ていないと思われる。今後定期的に会議の中で共有していきます。	掲示は行っていないが、カンファレンスの時に触れ、理念の共有を図っている。また、新人職員には面接時に理念や方向性等について話す時間を設けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	これまで町内のお祭りや中学校の文化祭などのイベントに参加をしました。近くのスーパーへは週に2~3回程買い物へ出かけたり散歩も天候の良い日はホーム周辺を歩きます。	町内のふれあい祭りや地元の公民館祭り等へ積極的に参加したり、内部行事に地域ボランティアを呼んだりしている。また、近所のスーパーへ買い物に行った際や事業所周辺を散歩した時、地域の人と触れ合ったり、交流したりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して地域の方へは発信しています。家族様へは、面会時に様子報告すると共に認知症の症状説明と理解を深めて頂けるよう話をさせていただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度の会議では、施設での出来事や行事、事故報告などの報告を行っています。	2ヶ月に1回、民生委員や地域包括支援センター、家族代表、他事業所のホーム長等が参加して、現況報告や地域行事などについて話し合っており、生きた会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今までそのような出来事がなかったように思われる。	管理者が窓口となり、地域包括支援センターへ運営推進会議の案内を持参したり、情報提供したりして連携を図っている。また、いつでも電話連絡できる関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	改めて勉強会を開いていないが、禁止行為の話はその都度出ているので理解していると思われる。今後定期的な内部研修にて周知していく。玄関の施錠は(9時~19時解放)行っていない。	年3回以上、委員会を開催している。また、マニュアルを整備し、日々の申し送りの中でその都度話し合い、情報共有しながら拘束しないケアに取り組んでいる。虐待や権利擁護、身体拘束についての勉強会を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記に同じく		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について個々に知っている者もいるが、学ぶ機会は内部研修にて今後行っていく予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に至るまでに本人とご家族との話し合いを行い、納得して頂いてから契約を交わすよう注意を払っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にてご家族様の意見や要望を地域の方と一緒に共有している。	個別対応時や夜間帯など、日常生活の中から汲み取ったり、家族が面会に来た時、積極的に声をかけ、意見等について話す時間を設けたりしている。出た意見は会議で検討し、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に一回自己評価と共に、個別面談を行い話を聴く機会を持っている。必要な事項に関しては、スタッフ会議にて話合うようにしている。	半年に1回面談を行い、職員の意見や提案を聞き取っている。また、現場で吸い上げた意見や提案を管理者会議の中で話し合い、現場に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得時の手当てや昇給など目標を持てるような仕組みを作っている。残業は特別な業務以外ほぼ無い。有給休暇も取得しやすい環境である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に関しては業務に支障の無いようスタッフに合った研修を勧め実践してきた。内部研修に関しては今後行っていく予定である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加することで、同業者との交流も図れている。運営推進会議においても地域内の同業種の方と意見交換できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初のアセスメントの段階で調整した内容は各スタッフへ共有できている。実際暮らし始めて新たな事項も申し送りノートを使い共有できている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との信頼関係を築くため、ホームでの出来事は定期的に電話や面会時にお伝えしご家族の状況も収集するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一番必要としているケアに関してはプランにあげると共に、ノートを使いスタッフ間の共有を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごす時間を一番に考え、一緒にできる事を常に考えながら隣に座り、過ごす時間も長い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様へは支援する内容をお伝えし同意を得てからの開始を行って行くようにしている。経過記録へ残している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方(友人など)がいつでもきがるにいられている方もいて、美容院も今までと同じ場所へ行かれて交流を図られている方もおられます。	定期的に馴染みの美容院や公園に出かけている利用者があり、個々の生活習慣を尊重している。また、友人や近所の方が来訪したり、知人にハガキを出したりする等、継続的な交流が出来る様に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全体行事はもちろんの事、普段の生活の中でも時に席を移動し一緒に洗濯ものを畳んだり、会話できるよう工夫しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今現在は行っていません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時、ご家族様やご本人様に話を伺いケアプランに反映させています。	日常生活の中で声かけし、暮らしの希望や意向の把握に努めている。また、表情や仕草からも汲み取るよう努めている。困難な時は、入居前に利用していた施設や家族等から情報を得ようとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	上記に同じく		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	上記に同じく		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	パラソル独自の表を使い各スタッフから課題をあげてもらっている。話し合いの場がなかなか難しい為個別に情報収集し作成している。	担当職員が3ヶ月に1回モニタリングを実施し、計画作成担当者がチェックしている。また、カンファレンス時、全職員で話し合い、協力医の意見や家族の意向なども取り入れながらケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	iPadを使っでの記録になっているため重要な申し送りも一括で両ユニット閲覧することができ情報共有できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サンブレラは多種多様な施設がある為、必要に応じた支援が続けていけるので安心		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くにふれあいセンターもあり、図書館や内部の施設、イベントも参加できている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医と隣合わせの好立地に有り、ご家族の安心の一つにもなっている。主治医からは必要な科への紹介状も対応していただきます。	家族の理解や薬管理等の協力が得られた時は、協力医に変更をお願いしている。しかし、家族がかかりつけ医の継続を希望した場合は、家族対応を前提として継続可能としている。協力医の訪問(月2回)の他、法人内から週1回看護師が来て、体調管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回、身体状態把握、健康管理、個別的な処置やリハビリを行い、記録を残す事でケアを共有しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には定期的に訪問し、状態を把握するよう病院関係者の話をきいてきた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りについて話しを行う。(重説内)	入居時、重度化及び看取りに関する指針を説明し、看取りの同意書を作成している。また、対応マニュアルを整備し、いつでも閲覧できるようになっている。会議の中で振り返りを行っている。	重度化及び看取りに関する勉強会の実施に期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練はまだ行っていない。今後、内部研修にて行っていく予定。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練はまだ行っていない。運営推進会議にて地域の方とは話は出るが協力体制とまではいっていない。	年2回、夜間想定のもと利用者も参加して避難訓練を実施している。また、向かいにある中学校の災害訓練に参加する予定である。	地域及び消防署との協力・連携体制の整備に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	同じことを繰り返し訴える方に対して、初めて聞いたように声掛けするよう努めている。	パット交換など、自分で出来る事は自分でやって貰っている。また、入浴時の個別対応や同姓介助など、利用者の誇りやプライバシーに配慮した対応をしている。本人や家族の希望により、その人に合った呼称で言葉かけしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物だけの提供時は、何種類かの飲み物から選んで頂くよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別に一人一人のペースで過ごすのは今は難しく希望に添えていないと思われる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な出張美容の提供行っている。 (毎月第一土曜日)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を一緒に食べることはしていないが、準備に野菜を切ってもらったり、テーブル拭きやお盆拭きをされています。	食事メニューは業者が作成しているが、自由献立の日を設けたり、おやつを手作りしたり、行事でお弁当を注文したりして、食事が楽しめるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケイタリングの食材を使い、栄養面ではバランスのとれた食事を提供できている。食べる量の調整や形態はそれぞれ個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛け誘導と定期的に歯科衛生士による口腔内衛生指導を行なっている。(毎週火曜日)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを全員把握できているわけではないが、失敗をしても自分で交換できるような工夫を行っている。	個々の排泄パターンを把握し、利用者のペースで支援しているが、自分で出来る人には自立を促している。また、利用者の表情やしぐさで汲み取れるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳を使った飲み物を多く提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	今は入浴日や時間を決めておこなっているが、今後個々に合った支援をしていきたい。	週2回の入浴を基本とし、車椅子の人でも入浴できる様、1階にリフト浴を設置している。また、体調に合わせて足浴・清拭にも対応している。そして、入浴を楽しんでもらうために、季節湯(ゆず湯)を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝や就寝時間は個々に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全部を把握できているわけではないが、往診時に先生からの説明指示を受けた後はノートを使いスタッフ間共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全部を把握できているわけではないが、買い物へ出かけたり、塗り絵や計算問題、カラオケなど好きな事の提供はできていると思われる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	なるべく買い物や近くのふれあいセンターへ出かけ、気分転換を図っている。ある入居者様は、娘様と焼き肉をランチに行かれ、好きなビールを1杯飲み、とても良い表情で戻られました。定期的に行きたいとご家族からも申し出もありました。	散歩や花の水やり、草取りなど、日頃から利用者の希望に合わせて支援している。また、飛行場や港灣など、日頃行けない所へドライブに行ったり、家族と外食・外泊したりする利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で持たれている方もおられますが、所持していることを忘れていくことが多いです。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	知人へ定期的に手紙を書かれている方もおられます。電話はご家族様の都合を聞いてからかけさせていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関入口にはいつも緑があり、ほっとする空間になっていると思います。南向きの大きな窓から見える景色はとても解放感があり広く感じられるとおもいます。	共有スペースは明るく清潔感があり、大きな窓からは、外の移り変わる風景を眺められることができ、開放的で穏やかな時間が過ごせる環境となっている。また、寛ぎスペースを確保し、ソファーに座ってゆったりと過ごせる様に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	誰かと一緒に居たい方が多く食堂で過ごされる時間が多いです。男性入居者様がお一人なので居場所づくりが課題です。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使われていたテレビやご自分で作った家具を持ち込み、心地よく過ごせる空間づくりを心掛けています。	個々に馴染みの家族写真や仏壇、使い慣れたクッションなどを持ち込んでおり、その人らしい居室となっている。また、居心地よく過ごせる様、レイアウトにも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	オープンキッチンはお年寄りの背丈に合わせた低い高さになっており、部屋内部では立って歩くまでにあんぜんな移動ができるようタンスの位置や介助用の手すりに替えるなど自立できる環境を工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390102246		
法人名	株式会社サンブレラ		
事業所名	グループホーム パラソル操南 (2階)		
所在地	岡山県岡山市中区藤崎136-26		
自己評価作成日	平成 31 年 4 月 23 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&ijigyoCd=3390102246-00&serviceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 31 年 4 月 26 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員の各種研修会には積極的に参加しています。特に認知症介護実践研修においては受講可能なスタッフから順番に講習させることにより、認知症への理解、現場での実践に役立っています。年間の行事においても施設内で1回以上開催、地域資源(ふれあいセンター、学校、スーパーなど)を使った外出を積極的に行っています。ご家族様の協力は多くあり、面会も二週間に一度以上の割合が5割あります。ご家族さまへは面会時に普段の様子報告を行い、写真集を見て頂く事で普段の表情を知って頂くきっかけにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

共有スペースは広く開放感があり、1階のウッドデッキや2階のベランダから四季の移ろいを感じることが出来る。また、木製フレームのソファやアンティーク家具が寛ぎスペースにマッチして温かい雰囲気演出している。そして、落ち着いた環境の中、利用者はテレビを観たり、ウッドデッキで日光浴をしたりする等、思い思いに好きな場所で日々の暮らしを楽しんでいる。さらに、空気清浄機を壁掛けにすることで、足元の安全性や動線の確保に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	オープン当初、事業所の内部研修として理念の共有をしているがその後内容を理解し、覚えて実践しているかという意味では出来ていないと思われる。今後定期的に会議の中で共有していきます。	掲示は行っていないが、カンファレンスの時に触れ、理念の共有を図っている。また、新人職員には面接時に理念や方向性等について話す時間を設けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	これまで町内のお祭りや中学校の文化祭などのイベントに参加をしました。近くのスーパーへは週に2~3回程買い物へ出かけたり散歩も天候の良い日はホーム周辺を歩きます。	町内のふれあい祭りや地元の公民館祭り等へ積極的に参加したり、内部行事に地域ボランティアを呼んだりしている。また、近所のスーパーへ買い物に行った際や事業所周辺を散歩した時、地域の人と触れ合ったり、交流したりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して地域の方へは発信しています。家族様へは、面会時に様子報告すると共に認知症の症状説明と理解を深めて頂けるよう話をさせていただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度の会議では、施設での出来事や行事、事故報告などの報告を行っています。	2ヶ月に1回、民生委員や地域包括支援センター、家族代表、他事業所のホーム長等が参加して、現況報告や地域行事などについて話し合っており、生きた会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今までそのような出来事がなかったように思われる。	管理者が窓口となり、地域包括支援センターへ運営推進会議の案内を持参したり、情報提供したりして連携を図っている。また、いつでも電話連絡できる関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	改めて勉強会を開いていないが、禁止行為の話はその都度出ているので理解していると思われる。今後定期的な内部研修にて周知していく。玄関の施錠は(9時~19時解放)行っていない。	年3回以上、委員会を開催している。また、マニュアルを整備し、日々の申し送りの中でその都度話し合い、情報共有しながら拘束しないケアに取り組んでいる。虐待や権利擁護、身体拘束についての勉強会を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記に同じく		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について個々に知っている者もいるが、学ぶ機会は内部研修にて今後行っていく予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	制度について個々に知っている者もいるが、学ぶ機会は内部研修にて今後行っていく予定。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にてご家族様の意見や要望を地域の方と一緒に共有している。	個別対応時や夜間帯など、日常生活の中から汲み取ったり、家族が面会に来た時、積極的に声をかけ、意見等について話す時間を設けたりしている。出た意見は会議で検討し、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に一回自己評価と共に、個別面談を行い話を聴く機会を持っている。必要な事項に関しては、スタッフ会議にて話合うようにしている。	半年に1回面談を行い、職員の意見や提案を聞き取っている。また、現場で吸い上げた意見や提案を管理者会議の中で話し合い、現場に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得時の手当てや昇給など目標を持てれるような仕組みを作ってくれている。残業は特別な業務以外ほぼ無い。有給休暇も取得しやすい環境である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に関しては業務に支障の無いようスタッフに合った研修を勧め実践してきた。内部研修に関しては今後行っていく予定である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加することで、同業者との交流も図れている。運営推進会議においても地域内の同業種の方と意見交換できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初のアセスメントの段階で調整した内容は各スタッフへ共有できている。実際暮らし始めて新たな事項も申し送りノートを使い共有できている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との信頼関係を築くため、ホームでの出来事は定期的に電話や面会時にお伝えしご家族の状況も収集するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一番必要としているケアに関してはプランにあげると共に、ノートを使いスタッフ間の共有を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今後の課題と考えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今後の課題と考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の方の訪問もあり、いつでも来ていただける環境にある。	定期的に馴染みの美容院や公園に出かけている利用者があり、個々の生活習慣を尊重している。また、友人や近所の方が来訪したり、知人にハガキを出したりする等、継続的な交流が出来る様に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全体行事はもちろんの事、普段の生活の中でも時に席を移動し一緒に洗濯ものを畳んだり、会話できるよう工夫しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今現在は行っていません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時、ご家族様やご本人様に話を伺いケアプランに反映させています。	日常生活の中で声かけし、暮らしの希望や意向の把握に努めている。また、表情や仕草からも汲み取るよう努めている。困難な時は、入居前に利用していた施設や家族等から情報を得ようとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	上記に同じく		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	上記に同じく		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	パラソル独自の表を使い各スタッフから課題をあげてもらっている。話し合いの場がなかなか難しい為個別に情報収集し作成している。	担当職員が3ヶ月に1回モニタリングを実施し、計画作成担当者がチェックしている。また、カンファレンス時、全職員で話し合い、協力医の意見や家族の意向なども取り入れながらケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	iPadを使っでの記録になっているため重要な申し送りも一括で両ユニット閲覧することができ情報共有できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サンブレラは多種多様な施設がある為、必要に応じた支援が続けていけるので安心		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くにふれあいセンターもあり、図書館や内部の施設、イベントも参加できている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医と隣合わせの好立地に有り、ご家族の安心の一つにもなっている。主治医からは必要な科への紹介状も対応していただきます。	家族の理解や薬管理等の協力が得られた時は、協力医に変更をお願いしている。しかし、家族がかかりつけ医の継続を希望した場合は、家族対応を前提として継続可能としている。協力医の訪問(月2回)の他、法人内から週1回看護師が来て、体調管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回、身体状態把握、健康管理、個別的な処置やリハビリを行い、記録を残す事でケアを共有しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には定期的に訪問し、状態を把握するよう病院関係者の話をきいてきた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りについて話しを行う。(重説内)	入居時、重度化及び看取りに関する指針を説明し、看取りの同意書を作成している。また、対応マニュアルを整備し、いつでも閲覧できるようになっている。会議の中で振り返りを行っている。	重度化及び看取りに関する勉強会の実施に期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練はまだ行っていない。今後、内部研修にて行っていく予定。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練はまだ行っていない。運営推進会議にて地域の方とは話出るが協力体制とまではしていない。	年2回、夜間想定のもと利用者も参加して避難訓練を実施している。また、向かいにある中学校の災害訓練に参加する予定である。	地域及び消防署との協力・連携体制の整備に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不安を訴える方もおられ、傾聴につとめるも時にきつい声掛けになることもある。	パット交換など、自分で出来る事は自分でやって貰っている。また、入浴時の個別対応や同姓介助など、利用者の誇りやプライバシーに配慮した対応をしている。本人や家族の希望により、その人に合った呼称で言葉かけしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物だけの提供時は、何種類かの飲み物から選んで頂くよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別に一人一人のペースで過ごすのは今は難しく希望に添えていないと思われる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な出張美容の提供行っている。 (毎月第一土曜日)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を一緒に食べることはしていないが、準備に野菜を切ってもらったり、テーブル拭きやお盆拭きをされています。	食事メニューは業者が作成しているが、自由献立の日を設けたり、おやつを手作りしたり、行事でお弁当を注文したりして、食事が楽しめるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケイタリングの食材を使い、栄養面ではバランスのとれた食事を提供できている。食べる量の調整や形態はそれぞれ個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛け誘導と定期的に歯科衛生士による口腔内衛生指導を行なっている。(毎週火曜日)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを全員把握できているわけではないが、失敗をしても自分で交換できるような工夫を行っている。	個々の排泄パターンを把握し、利用者のペースで支援しているが、自分で出来る人には自立を促している。また、利用者の表情やしぐさで汲み取れるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳を使った飲み物を多く提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	今は入浴日や時間を決めておこなっているが、今後個々に合った支援していきたい。	週2回の入浴を基本とし、車椅子の人でも入浴できる様、1階にリフト浴を設置している。また、体調に合わせて足浴・清拭にも対応している。そして、入浴を楽しんでもらうために、季節湯(ゆず湯)を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝や就寝時間は個々に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全部を把握できているわけではないが、往診時に先生からの説明指示を受けた後はノートを使いスタッフ間共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全部を把握できているわけではないが、買い物へ出かけたり、塗り絵や計算問題、カラオケなど好きな事の提供はできていると思われる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日用品の買い物もだいたい即日対応できている。最近では本人の希望にて選挙の投票の送迎を行いました。	散歩や花の水やり、草取りなど、日頃から利用者の希望に合わせて支援している。また、飛行場や港灣など、日頃行けない所へドライブに行ったり、家族と外食・外泊したりする利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で持たれている方もおられますが、所持していることを忘れていくことが多いです。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持たれている方は、毎日ご家族さまへ定時に連絡されています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関入口にはいつも緑があり、ほっとする空間になっていると思います。南向きの大きな窓から見える景色はとても解放感があり広く感じられるとおもいます。	共有スペースは明るく清潔感があり、大きな窓からは、外の移り変わる風景を眺められることができ、開放的で穏やかな時間が過ごせる環境となっている。また、寛ぎスペースを確保し、ソファーに座ってゆったりと過ごせる様に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで横になれたり、一階に降りて過ごす方もおられその都度支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お仏壇の持ち込みをされている方やご家族様が居心地を考え、家具やソファを配置して下さっています。	個々に馴染みの家族写真や仏壇、使い慣れたクッションなどを持ち込んでおり、その人らしい居室となっている。また、居心地よく過ごせる様、レイアウトにも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	オープンキッチンはお年寄りの背丈に合わせた低い高さになっており、部屋内部では立って歩くまでにあんぜんな移動ができるようタンスの位置や介助用の手すりに替えるなど自立できる環境を工夫している。		